

「ごみを減らす」思いを育てる
将来みんなが豊かで美しい環境で暮らすため、小さなころから「ごみを減らす」という思いを育てることが大切です。市では、子どもたちに、分かりやすく、また楽しく学んでもらうため、さまざまな取り組みを行っています。そんな取り組みに関わった皆さんに、思いを聞きました。



生活の中で必ず出るごみ

捨てる前に少し考えてみてください
これまでの社会はたくさん作って、たくさん使い、たくさん捨てる
こうした仕組みで成り立っていました
それは確かに便利で快適な生活を提供してくれたかもしれませんが
しかし、資源やごみを処分するための施設などには限りがあります
また、地球温暖化や自然破壊など、環境への影響が深刻になってきています
今、私たちにできること。何があるのでしょうか

問合せ 美化推進課 ☎(744)1170

ごみを減らしたり再使用するのには、大事なことだと考えていますので、保育所でも子どもたちにお話しします。でも、美化推進課の皆さんが来ると、やっぱり興味の示し方が違いますね。ですから毎年、「子ども向けごみ学習会」をお願いしています。学習会では、「ぶつくりごみくんとスリムちゃん」や「クリンジャー」というキャラクターが登場したり、紙芝居で物語風に聞かせてくれたりと、子どもたちが興味を持って、視覚からも楽しく覚えられるよう工夫されています。最後には、啓発キャラクターが付いた記念品がもらえるんですね。子どもたちはそれを持って帰って、親に見せながら、うれしそうに教えてもらったことを説明しているようです。

せっかく興味を持って、続けられないと身にならないです。ですから、普段は年長の子もたちが各クラスのごみを集めたり、「クリンジャー」に変身して公園のごみを拾ったりしています。人の役に立って「ありがとう」と言ってもらえるのが



緑保育所長 李田恵美子

小さなときから出したごみを意識するのは大事

「ありがとう」がやる気の源に
収集のお兄さんは子どもたちのヒーロー



子ども向けごみ学習会
すごくうれしいようで、みんな楽しみにしていますね。小さな子どもたちも、当番の人が来ると、自分でクラスのごみ箱を持って行くんですよ。自分たちでやることで意識するようになるのか、ごみ収集の車が来るとみんな走って行って、「いつもありがとう」とうれしそうに手を振るんです。子どもたちのあこがれのお仕事になっています。子どもたちはもちろんですが、地域の人と一緒に何かできないかなというの、いつも考えています。

例えば、年に1回「クリンジャー」に来てもらう日を園庭解放の日に合わせて、お迎えの時に親子で遊んでもらおうと、ペットボトルを再利用したおもちゃを作ったりしています。これがきっかけで、家でも何かしようという気持ちになってもらえたら、うれしいですね。子どもたちは頼りないように見えるかもしれませんが、おとなのすることをちゃんと見ています。普段から手本となるように、しっかりとした姿を見せていきたいと思っています。

子ども向けごみ学習会

出したごみがどのように処理されるのか、ごみの減らし方やリサイクルについてなど、就学前の幼児から小・中・高生まで、年代に合わせて学べるようにプログラムを用意。市内の保育所(園)や学校、自治会館などに美化推進課職員が出向き、学習会を行います。おおむね10人以上のグループであれば申し込み可。申し込みは美化推進課☎(744)1170へ。

キッズ「リ・ぼ・ん」は、ごみやエコのことなどを学んだり、自分が使わなくなったおもちゃや小物、洋服なんかを商品としてお店を出す、小学生向けの体験イベントです。

4、5年ぐらい前でしかか。ガールスカウトのリーダーをしていこともあって、主催者の人に「ガールスカウトの皆さんで出店しませんか」と声を掛けられたのがきっかけで、このイベントに関わるようになりました。

キッズ「リ・ぼ・ん」は子どもが主役です。もちろん保護者は同伴しますが、口出しや手出しは一切禁止。

出品されている商品はポイントと交換できて、子ども自身で物の価値を考え、どれを何ポイントにするのか決めるんです。ポイントは、会場でやっているワークショップに参加することで貯まります。

そのワークショップも、ゲーム感覚で分別を体験できたり、廃油とアロマオイルでキャンドルを作ったりと、子どもたちが楽しみながら学べるような工夫が凝らされています。

市 民活動センターで開催されている、「つながりカフェ」に参加した時に、「ごみ減量チャレンジ・モニター」という、子ども向けに、ごみの減量やエコについて学んでもらう企画を考える人を募集しているんですけど、やってみませんか」って誘われたんです。

もともとごみの減量に興味を持っていて、自分も勉強にもなるし、何より、子どもに何か伝えることができるという思いで、受けることにしました。

全員で15人ぐらいだったと思います。年配の人から子ども連れの若いお母さんまでいて、ごみの問題って、やっぱり幅広い世代で共通の課題なんだなと感じました。

年齢や立場が違う人たちが集まるので、当然いろんな意見が出るんですね。意見はさまざまですけど、どうすれば子どもたちが関心を持ってくれるか、楽しみながら学んでくれるかなど、より良いものにしてほしいという思いはみんな一緒。新たな視点に気付かされたり、感心することも多



ガールスカウトリーダー 坂手多香さん

楽しく学び体験することで 自然と身に付く

子どものころから習慣付けば、おとなになって 頑張らなくても当たり前のごみを減らせる

子どもたちが関心を持つよう 1年かけて企画を練る

自分たちが企画したもので 何か感じたり、考えたりするきっかけになれば



チャレンジ・モニター参加者 猪飼和枝さん

おとなはもちろんですが、特に子どもたちにとつて、楽しいということは、知識や経験を吸収する、大きな原動力になると思います。参加した子どもたちは、次も参加したいと楽しみにしているんですよ。家の掃除や片付けをするときに、使わなくなったものを捨てたり、適当に扱ったりせず、使ってくれる人がいるのなら使ってほしいと、大切に保管する子どももいます。



持ちが芽生えてくるのでしようね。楽しんで学んだことは記憶に残るでしょうし、また、繰り返し学びながら体験することで、習慣化して、自然と身に付いていくように思います。

「キッズ「リ・ぼ・ん」
子どもたちに、ごみを減らす大切さを体験・実感してもらおうと、22年度から開催しているイベント。次回は29年3月開催予定。小学3～6年生がフリーマーケットの店長になって、家で使わなくなった小物やおもちゃ、着なくなった服などを出品します。「リ・ぼ・ん」には譲りたい人と欲しい人を結ぶ「リぼん」と、Reborn（リボーン・生まれ変わる）という意味が込められています。

ごみ減量チャレンジ・モニター募集

キッズ「リ・ぼ・ん」の企画・運営など

問合せ 美化推進課 ☎(744)1170

環境イベント「キッズ『リ・ぼ・ん』」の企画・運営など、子ども向けごみ減量啓発の実践活動に取り組む「ごみ減量チャレンジ・モニター」を募集します。

対象は、市内在住者でごみの減量に関心があり、実践活動ができる人（ただし、ごみ減量チャレンジ・モニターの経験がない人）。定員は20人（定員超過の場合は抽選）。

申し込みは、市役所1階南側玄関待合横リーフレット立てや各公民館、図書館などに備え付けの応募用紙（市ホームページからダウンロード可）に必要事項を書き、郵送かファクス(744)1221、メールkawa0202@city.kawanishi.lg.jpで、5月27日(金)（必着）までに〒666-0011・出在家町1-11の美化推進課へ。

子どもは、自分の目で見たら、耳で聞いたり、実際に体験したことなんかをどんどん吸収

する時期だと思っんです。例えば、ごみ捨てを手伝っている子どもも結構いると思いますが、ただ捨てに行くだけじゃなくて、こういったイベントに参加することで、何か少しでも感じたり、考えたりますよ。また、お家でも子どもさんが「何かやってみよう」という気持ちになるように働き掛けてみてください。

大型ごみを有料化

5月1日から開始。処分には処理券が必要
有料化でごみの減量に期待

これまで市が行ってきた取り組みを通じて、子どもたちにもごみ減量の意識の芽は育とうとしています。活動を続ける皆さんと共に、さらに減量に向けた動きを進めるため、新たな取り組みを始めます。

5月1日(日)から大型ごみの有料化をスタート。収集方法も変更します(下記)。

有料化する目的の一つ目は、ごみを減らすことです。市民一人当たりが出す大型ごみの量は、分別方法を変更した21年度以降ほぼ横ばいで推移しています。

有料化することで、「もう少し使おう」「リユースショップに出そう」といった意識が芽生え、大型ごみはもちろん、それ以外のごみについても、減量につながる大きな効果があると考えています。

二つ目の目的は、負担の公平感を確保することです。大型ごみを出す量は、世帯によってばらつきが多く、たくさん出す世帯もあれば、ほとんど出さない世帯もありま

す。

そこで、出す量に応じて費用を負担してもらおうことで、あまり出さなかった世帯と、そうでない世帯との不公平を解消することができます。

このほか、他市町からの大型ごみの流入を防ぐ効果も期待しています。

川西市以外の阪神間各市町をはじめ、隣接する池田市や豊能町、能勢町では既に有料化されています。

そのためか、特に市町境や幹線道路沿いのごみステーションで大型ごみ不法投棄され、困っているという市民の声を多く聞きます。

本市でも有料化することで、そういった不法投棄を大幅に減らすことができると考えています。

次世代のために

ごみ減量の新たな取り組みを実施
市民・事業者・行政互いの協力が不可欠



美化推進課長 宇野功哉

計画を策定し ごみ減量に取り組む

市では25年3月、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき「川西市一般廃棄物処理基本計画」を策定しました。

同計画では、「ごみの発生抑制、再利用の推進」「再生利用の推進」「環境負荷の低減に配慮した収集処理の推進」「市民・事業者・行政のパートナーシップによる取り組み」を4つの基本方針としています。

25年度を計画の初年度として、10年後の34年度を目標に、資源の消費を抑え、環境への負荷をできるだけ少なくする「循環型社会」をめざして、ごみの減量に取り組んでいるところです。

前回の計画策定時に設定した目標の一つに、1人が1日当たりに出すごみの量を934gにするというものがありました。これについては、市民や事業者の皆さんの協力により、達成することができました。

新たな目標を達成するため さまざまな施策を実施

今後もさらに、この「循環

目標達成のための取り組み

■ごみ減量出前講座

ごみの分け方や出し方、ごみステーションに出されたごみのゆくえ、家庭でできるごみの減量方法などを学べます。

■自治会・コミュニティとの連携

再生し資源化できる古紙類や古布・布衣類、アルミ缶、牛乳パックなどの集団回収。

■リユース情報誌「リ・ぼ・ん」

市内の公共施設やスーパーなどに設置。家庭で不要になった日用品などを登録し譲りたい人と欲しい人の仲介をします。

■ごみ袋の透明・半透明化

中身の分かる袋にすることで、より分別の意識が高まることを期待。29年2月から、黒色半透明や不透明の袋で出されたものは収集しません。

型社会」を進めるため、今回の計画で新たな目標として、一人が1日当たりに出すごみの量を基準の22年度から100g減らして、828gにするを掲げています。しかしながら、近年は横ばい状態が続いており、これまで通りのやり方だけでは、目標を達成することは困難な状況となっています。

このため、現在行っている、「ごみ減量出前講座」や「子ども向けごみ学習会」「ごみ減量チャレンジ・モニター」「キッズ「リ・ぼ・ん」「自治会・コミュニティとの連携」や「リユース情報誌「リ・ぼ・ん」」などに加え、新たな取り組みとして、大型ごみの有

料化を実施することになりました。また、29年2月からはごみ袋の透明・半透明化も実施します。

一人ひとりの積み重ねが「ごみ減量の大きな力に」「誰かが何とかしてくれる」「面倒くさいし、自分一人ぐらいがやっても意味がない」と思う人もいるかもしれませんが、私たちが暮らしている社会は一人ひとりの集まりでできています。大切なのは一人ひとりの小さな積み重ねではないでしょうか。

将来、子どもたちやその子どもたちが、豊かで美しい環境で暮らせる社会を作るために、今できることを始めませんか。

大型ごみの出し方は？

【問合せ】美化推進課 ☎(744)1124

■Step 1【予約する】

収集希望日の4日前(土・日曜日を除く)までに、電話(764)5379(午前8時半～午後4時)かファクス(764)5399または予約専用ホームページ(URL=http://s-kantan.com/oogata-kawanishi-u/)で、住所、氏名、電話番号(ファクスの人はファクス番号。予約専用ホームページの人はメールアドレス)、収集希望日、品名、大きさ、収集希望場所を伝えてください(時間の指定はできません)。

内容を確認し、処理券に記入する受け付け番号や処理手数料などをお知らせします。なお、予約状況によっては収集日・場所の変更をお願いする場合があります。

■Step 2【処理券を購入する】

処理券は、市役所や市役所分庁舎、各行政センター、市内の一部小売店などで購入できます。取扱店は随時、追加や変更があります。

詳しくは市ホームページ(ID番号K20114でサイト内検索)か美化推進課へ。収集手数料は、長辺の長さを

基準とします。40cm以上1cm未満は300円、1cm以上2cm未満は600円、2cm以上は900円です。

■Step 3【ごみを出す】

購入した処理券に受け付け番号を記入し、該当の大型ごみに貼ってください。収集日当日、午前8時半までに収集場所に出してください。なお、収集に立ち会う必要はありません。

What's 大型ごみ

家具や自転車、家電製品(テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン、パソコンは除く)など、単品で1辺が40cm以上のもの。1辺の長さは一番長い部分(長辺または直径)で判断します。なお、折り曲げたものや丸めたもの(布団やじゅうたん、玄関マットなど)は折り曲げた・丸めた後の長さが基準になります。また、傘やゴルフクラブ、剪定枝などの棒状のものは10本をまとめて1つとします。

